

2022年7月10日(日)

ぶち楽しいバードウォッチング④

～今年巣立った幼鳥～

一般に野鳥は春から夏にかけての間が繁殖期です。7月は繁殖期の終わりになり、多くは既に繁殖を終えていて、巣立った幼鳥たちを見る機会が多くなります。何気なく見ていると、成鳥と幼鳥の違いはなかなかわからないので、この行事では違いを学び、園内を歩いて幼鳥を探しました。



21名の参加がありました。梅雨が明けて暑いなか、ご参加ありがとうございました。始めはレクチャーホールで資料を使って違いを学びます。



観察ホールで双眼鏡の使い方を説明します。動きの速い小鳥を観察するには、双眼鏡の使いこなしが重要なポイントです。



干潟や汽水池の杭の上にはカワウがとまっていますが、成鳥ばかり。カワウは近くで繁殖していますが、幼鳥は見られませんでした。



野外に出ると、屋外トイレの近くをツバメが飛び回っていました。屋外トイレの中にはツバメが巣を作り、子育て中なのです。



目線でわかるとおり、巣は入口のすぐ近くにあります。4羽のヒナが順調に育っています。



巣はカラスやヘビに食べられないように、金網でガードしています。



淡水池の東屋でしばし休憩。子どもたちは日射しのもとでも元気いっぱい。タフですね。



園路を進むと、園路の端の陰になった場所にホオジロの幼鳥がいました。



観察展望棟から見える土路石川の河口は干潟が出ていました。



アオサギの幼鳥を発見。全体に灰色みが強いのが幼鳥の特徴です。



成鳥もいました。比べてみると、色の白さがかなり違います。



小さな子どもも頑張ってスコープを覗いてみます。見えたかな？



ヨシ原の横を進んでいると、近くからアオサギが飛び立ちました。



成鳥の個体でした。アオサギは最近クリークなどでよく見ます。

観察できた幼鳥はホオジロとアオサギだけでしたが、オオヨシキリやセッカなど、この時期は幼鳥がたくさんいるはずなので、注意して探してみてください。